

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200096		
法人名	芙蓉建設株式会社		
事業所名	グループホーム桜森荘		
所在地	山梨県富士吉田市旭1丁目10番3号		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の生活を支える事業者として、地域との共存を図りながら介護サービスを提供し、地域福祉に貢献します。高齢者が自らの意思に基づき、自らの能力を最大限に活かして、自立した質の高い生活を送ることができるように支援したい。
また、医師と常勤の看護師と介護員のチームワークで、最期まで安心して生活できる場所として利用者・家族にとらえてもらい、看取りをした方のご遺族ともいまだに、つながりを持っている。職員の研修にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士山を望む桜森荘は開設から4年が経過し、認知症を支えるケアを職員一体となって日々工夫と研鑽を積んでいることを感じられます。高齢化が進む地域の課題を行政と連携を図りながら、地域に根ざした施設を目指しています。コロナウイルス感染症の拡大で思うような取り組みができないなか、インターネットを駆使し、利用者の喜びや家族のつながりを切らさないような工夫をされ、穏やかな日常が維持されています。重度者のケアも本人の自立支援を課題と捉えケア計画に沿った職員一丸となつての取り組みは効果が見られ評価できます。今後も地域との交流や行政との連携を深め、よりスキルを高め、地域に根ざした施設の運営を期待いたします。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、新しく設置した運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。また、理念と運営方針に関する月間目標を定め、周知徹底の為、1か月間毎日朝礼でも確認。	理念、新しく設定した運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。また、理念と運営方針に関する月間目標を定め、周知徹底の為、1か月間毎日朝礼でも確認。	理念、運営方針を玄関やホールに皆さんにもわかっていただけるように大きな字で表示し、また、職員は事務所内に掲示し月間目標を定め、ご利用者さんの満足度を意識した取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り、清掃活動等)していますが、コロナの影響によりイベントが中止になり参加が出来ていない。また、日曜日の食材等に関しては出来るだけ近所店(肉、魚等)で購入。地域の小学生からの手紙を頂き敬老会の際、皆さんに読み上げる。	西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り、清掃活動等)していますが、コロナの影響によりイベントが中止、清掃のみ参加。また日曜日の食材等に関しては出来るだけ近所店(肉、魚等)で購入。地域の小学生からの手紙を頂き敬老会の際、皆さんに読み上げる。	コロナ禍であり地域のイベント活動も制限されていることもあり、思うような取り組みが出来ていない。しかし、ご近所の子供さんが庭で遊んだり憩いを運んでくれる。充実するにはこれからと言う事もあり、施設の知名度を高める取り組みも検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。認知症の相談は変わらず受け付けており相談、支援の方法等助言を行い、行政サービスにつながったケースもある。	例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。地域の方で、介護方法や行政への申請方法などの相談に来荘することがあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会等)等の意見を取り上げ、感染予防対策に結び付けた。前年度、ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)し閲覧数も伸び、活用されている。会議はおおむね2ヶ月に1回の開催。8月までは書面で照会による開催。	入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会等)等の意見を取り上げ、感染予防対策に結び付けた。前年度、ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)し閲覧数も伸び、活用されている。会議はおおむね2ヶ月に1回の開催。8月までは書面で照会による開催。	運営推進会議はおおむね2か月に1回開催。書面による開催や報告を行っている。ホームページを設定したことにより、閲覧件数も伸び、活用されている。重度者に対する取り組み状況やサービスの実態を報告し、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を構築。	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を構築。	定員に対する受け入れ状況について日頃から行政と連携を密にし協力関係を築いている。また、ケアサービスやご利用者の症状改善状況についても運営推進会議に報告して信頼関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の錠錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解されるよう、玄関錠等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら出来るだけ拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解されるよう、玄関錠等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら出来るだけ拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束禁止の理解を深めるため、月1回施設内研修を行い、課題に対して考える研修を実施している。また、施設外のメディア研修を受講し、身体拘束をしないケアについてスタッフの意識が高く、実施できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注視予防に努めている。虐待と思われる事象があり、その後の面談で対応している。	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注視予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての受講の機会はない。メディアを使用し自由に研修できるようになっている。本人の意思が尊重されるよう、日本相続財センターの無料相談を利用したケースもある。以前、包括・社協との連携の下、最期を迎えた時の対応について、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応。	残念ながら日常生活支援事業や成年後見制度については、そのことのみを中心とした研修、講師等機会を持ったことはない。メディアを使用し自由に研修できるよう導入、その中の研修項目となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置し、意見、要望等取り入れ運営に反映。ただしコロナ禍にあり外部の施設への出入りが少ない為有効ではないと思われる。利用者から1件苦情がありそれについて当該職員と面談し苦情内容に類似した事案は現在見られていない。	ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置し、意見、要望等取り入れ運営に反映。ただしコロナ禍にあり外部の施設への出入りが少ない為有効ではないと思われる。	外部との接触が少ない今日、貴重なご意見を頂く機会があった。苦情に対して当該職員と面談したり、本部も介入して対応を検討。利用者や家族の意見を反映する良い機会と捉え運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。また、相談をしやすいようユニットリーダーを設けた。	職員全体会議(月2回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。また、相談をしやすいようユニットリーダーを設けた	ユニットリーダーを配置し職員の意見を反映しやすい環境づくりをしている。職員全体会議において、利用者の関わりについての意見やシフトの業務内容の見直しについても職員から意見が出され反映がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう、職員面談を行い、職員の思いやストレスの状況なども合わせて把握して、職場環境・条件等に努めている。	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう、職員面談を行い、職員の思いやストレスの状況なども合わせて把握して、職場環境・条件等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。	管理者や職員1人2人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年同業者との交流、各種の研修の照会を行っていたが、今年もコロナウイルスの影響により同業者との交流行えず。	例年同業者との交流、各種の研修の照会を行っていたが、今年もコロナウイルスの影響により同業者との交流行えず。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。最近では帰宅願望のある入居者様が増えてきておりその方々に応じた24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。最近では帰宅願望のある入居者様が増えてきておりその方々に応じた24時間シートや自分史などを活用して把握し、その人の思いや改善方法を研修の中で検討、支援を実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず利用契約をする上でご家族が困っていること、不安なこと、要望には耳を傾けさせていただいています。その際に出た事案をサービス計画書や日々のサービス提供に反映させていただき、また、ご家族とは密に連携をとらせていただき、情報の共有に努めています。	帰宅願望があり、落ち着きがなくなったり、盗難妄想も激しくご家族も自宅でも目が離せない状態で、こちらにもいろいろそのことで迷惑をかけることもあると、興奮しない環境づくり家族とも連携して(電話を自由にして安心して頂く等)関係づくりを実施。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前は毎朝多量排尿があり全身更衣、シーツ・布団も濡らしてしまい困っていた、短時間睡眠で夜間徘徊があるとの事。計画にも盛り込み24時間シートを用い、入居後4日目からは生活パターンが把握でき、帰宅願望はあるものの排泄・睡眠等本人が困ることなく対応できている。	昨年、便秘について非常に困っている全介助状態の利用者が入居、ご本人の潜在能力を考慮し、離床と食事摂取の自立支援(心掛けサービス提供。結果、食事が自力摂取でき、食事が減り、便秘が改善した。家族はまず椅子に座っている利用者を見て驚いていた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共に行ってくれる方もいれば、食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。ご利用者が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共に行ってくれる方もいれば、食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。また自主的に裁縫や草取りなどご利用者が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ADLの低下・栄養状態の悪化している方・水分摂取があまり摂取しない方に、午前のお茶の際にジュレ(水分摂取用ゼリー)を摂取していただく事を理解していただき、食事・栄養摂取への契機となるよう働きかけを行い、ご家族も喜んで、看取りの方に対しては、可能な限りご本人と家族の時間を大切に過ごして頂いている。	コロナウイルスの影響により外食・外出等制限を行っているのが現状。面会についてはビニールカーテン越しで行って頂いている。但し、大動脈解離で状態の悪い方・看取り状態の方については、感染対策の上で配慮しながら居室での面会を解除。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や子供たちからの手紙のやり取りはしている。面会も玄関に設置してあるビニールカーテン越しでの面会を実施させていただいています。(手指消毒や来荘人数制限などあらゆる感染症対策を実施)友人関係も続いている。	面会制限の為、馴染みの人や子供たちとの手紙のやり取りはしている人もいる。また、携帯電話を持っていない方も、事由に事務室で電話を使って頂いている。	コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行いながら面会を実施し馴染みの関係が途切れない工夫を行っている。また、携帯電話も普及して声の交流が可能になり、持たない利用者も事務所内の電話を使ってもらい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に支えあえるような関係に努めている	比較的優しく穏やかな方が多く、トイレ誘導までしようとするため、都度職員が気にしながら、対応している。支えあう気持ちは大切にしたい。	食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。看取りの状況で居室からあまり出ることがない方にも、他者が訪室して声をかけてくれ気遣いが感じられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになった方のご家族が数か月たって来所し、家の片づけで出た使えそうなものを持って来ていただいた。現在も関係が継続している。努めていたわけではないが、他の利用者にも面会したいとの事で、関係性が出来ていたことに返って驚いたこともある。コロナ渦ですが、ご家族とのお手紙のやりとりもしている入居者もいる。	当施設内で心肺停止救急搬送・入院したケースでは入院後終末期であることがわかり、終末期を家で過ごすための介護方法やアドバイスをもらいたいとの事で相談に応じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。医師からの勧めと本人の要望が異なることもあり、その際には何度か話をし、すり合わせをしている。	日常的に会話をする機会が多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。一人困難な方はいるがある程度は会話で把握できている	日常的に会話をする家庭的な雰囲気であり、何気ない会話の中からも、利用者の意向を把握するよう努めている。意思表示が困難な利用者には表情や生活歴、習慣から読み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、今までの生活習慣、環境等、自分で応えられる方に関しては本人より、応えられない方には、家族に依頼し自分史をお願いして把握。入居後も家族に以前の生活スタイルについて再度聞くようなこともある。	生活歴、今までの生活習慣、環境等、自分で応えられる方に関しては本人より、応えられない方には、家族に依頼し自分史をお願いして把握。入居後も家族に以前の生活スタイルについて再度聞くようなこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の毎日の過ごし方、近々の心身状態、有する力等状態の経過を見ながら、本人と話しながらその日の暮らし方を決定。	1人1人の毎日の過ごし方、近々の心身状態、有する力等状態の経過を見ながら、本人と話しながらその日の暮らし方を決定。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。	介護計画作成に当たっては、入居時の状況をしっかりとアセスメントし、より良い暮らしをするための課題を本人、家族、関係者と話し合い、明確にしている。寝たきり状態の利用者が車椅子に移乗し食事摂取できるようになり、精神的に不安定な利用者の内服薬が減薬するなど課題に基づいた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りをして記入し、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている、計画の見直しに実施。	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りをして記入し、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている、計画の見直しに実施。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中でも心理的支援として、相続・受診の件で相談を受けた。またキーパーソンからの心理的・経済的虐待があり、ご兄弟と相談しながら税理士への相談の調整を行ったり、別のご兄弟との関係性を調整し、不安なく生活できるよう対応した。	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めていない。ただし、預り金が多額な場合、本社預かりとして、そこからの引き出しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	金融機関に来ていただき、ご利用者・ご兄弟との打ち合わせを行い、今後の財産の取り扱い方法について検討。また日本相続知財センターの無料相談を利用。	コロナ禍という事もあり、地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。	受診は、本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医の継続は元より、状態の変化に応じて協力医療機関や外部の主治医との連携を深め、常に適切な医療を受ける事ができるように、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。	看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について説明し、実際に看取り状態になった場合は、家族等と十分話し合い理解を深めている。主治医とも連携し情報を共有している。状態変化については、その対応を職員間で共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応については年1回研修程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応については年2回研修程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなど把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。概ね月1回施設内での避難訓練を実施出来ている。	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなど把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。概ね月1回施設内での避難訓練を実施出来ている。	毎月避難訓練を実施している。火災と地震を交互に行い、中綿の入ったアルミ製の防災ずきんが人数分準備され、すぐ取り出せるようにテレビ台の下に保管している。消防団とも有事の際の協力について話し合いを持ち、協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしっかりと行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意したり、面談することもある。	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしっかりと行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意したり、面談することもある。	日々の暮らしの中で馴れ合いからちゃん付けで呼んでしまう場合があり、そのような職員には注意したり、月間目標を掲げ誇りを損ねない丁寧な言葉かけの対応に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髮、無精ひげ等身だしなみを大切に。鏡を常に見たい方には、手鏡をそばに置き、その方なりのおしゃれができるように支援している。	頭髮、無精ひげ等身だしなみを大切に。化粧をする方もいる。その方なりのおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように一部嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検査を兼ねて職員と一緒に摂っている。	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように一部嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検査を兼ねて職員と一緒に摂っている。	楽しめる食事になるように、ひな祭りや七夕、バレンタインデーなどのイベントでは、デリバリーで本人の希望を重視した食事を企画し実施している。また、利用者の力を生かした手作りおやつでは、たこ焼きやカップケーキが好評である。後片付けもそれぞれのできる事を職員と一緒にに行い、生きがいがとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリを起きたら提供、状態に応じジュレ(水分接種用ゼリー)を召し上がる方もいれば、コーヒーを飲んでいただいている。9人中2人はムース食提供、本来、もう一人もムース食がミキサー食の方が望ましいが、本人の強い要望により常食を提供。摂取が少ない時にはメイバランスなど提供。	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリを起きたら提供、状態に応じジュレ(水分接種用ゼリー)を召し上がる方もいれば、コーヒーを飲んでいただいている。9人のうち一人は日中水分摂取が少な夜間心臓発作を起こしやすい為、トイレに起きる度にポカリを50mlずつ提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリデント、口腔ガーゼ等。口腔ケア方法が難しい方には、歯科往診の際に指導を受けた動画を職員が見て学び、実践に生かしている。	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人2人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリデント、口腔ガーゼ等。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中3人は自立だが、うち一人は腸閉塞を起こしやすい為に下剤を用い、1~2ヶ月に1回程度便失禁があり介助が必要。出来る限り1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を實踐。	9人中1人自立。向精神薬と認知症治療薬を多量に内服されて入居した方については、不穏の状態を見ながら1年をかけて減薬を行い、睡眠の深さ・水分摂取の状況に合わせて都度パットを使い分けている。	排泄は暮らしの質に深く関わる問題であり、1人1人の排泄状況を把握してサポートする事が重要で、自立に向け実際把握に努め、支援に繋がった事は評価できる。そして、睡眠時の排泄についても、服薬との関係性を検証し、良質の睡眠に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食物繊維の摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。軽い運動はしてはいるもののコロナ禍もあり十分ではない。	水分・食物繊維の摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。軽い運動はしてはいるもののコロナ禍もあり十分ではない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	入浴は入居者にとって唯一の楽しみであり、1人1人の希望やタイミングに合わせて行われている。1時間半と長湯を好まれる入居者もいるが、了解を得て曜日を変えたり、若干入浴時間を短くするなど、個々の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていたりすることも。また夜間のどの渴き等水分を提供。	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。また夜間のどの渴き等水分を提供。寂しがりの方で、寝る時にそばにいてほしい要望があるときには手を握るなど援助することもある。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。嚥下の状態に応じ服薬の支援をし、症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。	ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。(コロナウイルスの影響により施設内で出来るイベントを多く実施)	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。(コロナウイルスの影響により施設内で出来るイベントを多く実施)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により外出事は行えませんが、近くへの散歩・ドライブや施設内で出来るイベントに力を入れて対応。庭や表に出る機会を作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。	コロナウイルスの影響により外出事は行えませんが、近くへの散歩・ドライブ・花の水やりや施設内で出来るイベントに力を入れて対応。庭や表に出る機会を作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。	コロナウイルス感染予防の観点から日常的に外出支援を行える状況に無く、その中でも2班に分けて遠方への紅葉狩りや湖畔へのドライブ等戸外に出かける支援に心がけている。施設内では、花の水やり、散歩などを行い、気分転換に寄り添っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で銀行員が訪問し管理して頂いている方もいる。	全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で持って頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。携帯電話を持っている方もいる。手紙もやり取りする方も1名いる。また、アレクサを使ってテレビ電話をする方も1名いる。	家族に電話をかけたいと要望される方は自由に電話している。携帯電話を持っている方もいる。手紙もやり取りする方も2名いた(1名は先月逝去)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。駐車場の草取りを市しに外へ出る方もいる。	共用の場所は天窓や日当たりなど、創設者のこだわりが感じられる建物となっている。ソファとこたつも設置されぬくもりが感じられる。またコミュニティーカフェで、家族とお喋りを楽しんだり、日光浴をするなど居心地よく自由に過ごせるような空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニティーカフェの活用。気の合う入居者同士の居室に伺い世間話やアレクサを使って演歌を聞いたりしている。居室で過ごしたい方もいる。	コミュニティーカフェで職員が昼食を食べていると話をしに来る方もいる。気の合う入居者同士の居室に伺い世間話やアレクサを使って演歌を聞いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、筆箱・鏡台などの家具、アルバム等)。ただし、先月入居の方で、筆箱などなじみの物を多く持ってこられた方は"ずっと住めという事かな、私は捨てられた"と思うことがあり、かえって気持ちが不安定になることもある。	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ、筆箱・鏡台などの家具、アルバム等)。	馴染みの置物やダンス、アルバム等好みの物を配置し、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。インターネットで演歌を聞く事もできるため他者を部屋に呼んで一緒に楽しむ姿がある。また、地震等の予防策として、転倒の下敷きにならないよう配置もしっかり考えられおり、配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫している。夜間ドアに鍵をかけ荷物のセイルをされていた方については、藤の椅子が壊れてしまったり(上ってしまった様子)、テーブル等でドア付近にバリエードをしてしまうため、椅子とテーブルを撤去させていただいたこともある。		